

国際部の日

末岡 亜紀子

国際部国際会議課課長補佐
(平成13年入局)

もともと「超」がつくほどのインドア派でしたが、健康のために始めたテニスにハマリ、今では週末に暇さえあればテニスに出かけるほどに。なかなか上達しませんが、良い気分転換になっています。



私が所属する国際会議課は、衆議院が公式に開催または参加する国際会議を所管しており、参加する議員を事務の面からサポートする役割を担っています。私が担当する会議の一つに、日本国会と欧州議会との間で40年以上の長きにわたり開催されている日本・EU議員会議があります。以下、令和5年7月に「第41回日本・EU議員会議」のために欧州議会のあるストラスブール（フランス）に出張した際の様子をご紹介します。

会議1日目

8:00 業務開始
日本国会代表団は、会議に備えた最終的な勉強会のため、現地総領事館へ。勉強会の進行を見守りつつ、欧州議会に先着した同僚と連絡を取り合い、会場の準備状況等を確認する。

9:30 欧州議会要人との会談
日本国会代表団を欧州議会に案内。期間中は、会議以外にも議会や政府の要人との会談を行うことが多く、この日の午前中は、欧州議会の外務委員長と国際貿易委員長との2件の会談が行われた。最近の国際情勢や共通の課題について率直な意見交換が行われ、有意義な会談となる。会談中は双方の発言内容を注意深く聞き、メモを取る。

11:45 欧州議会本会議の傍聴
ちょうど欧州議会の本会議が開会中だったため、本会議場において傍聴。議席の欧州議員から拍手で歓迎を受ける。議員の近くに通訳者を配置するなど、議員が内容を把握できるようにする。

13:40 昼食会
日本国会代表団を歓迎して、欧州議会副議長主催による昼食会が行われる予定であったが、本会議が長引いて欧州議会議員らの到着が遅れ、開始が大幅に遅れることに。欧州議会のスタッフと協議してスケジュールを変更し、セッションの準備のため会場に向かう。



【会議の合間に両団長と】

15:30

第一セッション

会議のメインイベントであるセッションがスタート。1日目は、日欧双方の政治・経済・社会情勢やウクライナ情勢などが議題。参加議員による活発な議論が行われる。会議中は、議員の出席状況や、予定通りに日本国会代表団が発言しているかなどを確認しながら、進行状況の把握に努める。



【第41回日本・EU議員会議の様子（左下が筆者）】

19:00

夕食会

欧州議会の対日交流議員団団長主催による夕食会は、日欧の議員同士の関係を円滑にするための重要な行事である。配席や通訳の配置の確認を行う。セッションでの真剣な表情が緩み、リラックスした雰囲気での交流が行われている様子を見て一安心。宿舎に到着後、議員と翌日の日程の確認をして業務終了。

会議2日目

9:00

第二セッション

2日目のセッションでは、AIや環境・エネルギー問題といった日欧間の共通の課題における協力関係などについて議論。この日は、日本の代表団の団長が議長役を務めるため、円滑な議事進行が行われるよう細心の注意を払いながらサポートを行う。最後に、日欧両団長による共同声明への署名式が行われ、会議は無事に終了。同僚たちと達成感と安堵感を共有しつつ、日本国会代表団とともに欧州議会を後にする。

案ずるより産むがやすしの日々

草島 春菜

国際部渉外課総務係長
(平成23年入局)



観劇と映画が好きで、終業後に劇場でソワレを観劇したり、映画を2本ハシゴしたり、なんてことをよくしていました。最近は自宅で配信派ですが、やっぱり劇場のあの独特の雰囲気が好きです。

衆議院事務局の職務内容は多岐にわたりますが、私の所属する渉外課の業務は事務局職員であってなかなか想像しづらい類のものかと思います。

衆議院では年に数件、二国間関係を深めるために外国議長の訪日招待を行っており、これが渉外課のメイン業務の一つです。外国議長一行の滞在中には、衆議院訪問のほか、天皇陛下御引見や総理大臣訪問等の行事があり、渉外課員はこれらの日程を調整し、当日も同行します。訪日に際してほかにどのような仕事があるかといえば、通訳や宿舎・新幹線を手配し、急な日程変更に対処したり、両替のために一行に付き添って銀行を探したり……。場合によっては宗教事情や食事制限なども考慮する必要があり、計画段階から毎回非常に気を遣います。一行の日本滞在中はとにかく緊張感も続きますので、離日の飛行機が無事離陸してようやくほっと一息です。

外国議長の招待以外にも、数年に一度行われる外国元首の国会演説や、毎週のように行われる外国要人の正副議長訪問といった、議院外交の面で非常に重要な業務も渉外課が主に担当しています。

皆さんが想像するであろう『国会職員っぽい仕事』とはもしかしたら、ずいぶんイメージが違うかもしれません。衆議院職員なのに、日本の議員より外国の議員と接する機会のほうが多いです。

けれど、案ずるより産むがやすし。初めての経験だらけになりながら衆議院事務局で働くのは、緊張もしますが楽しい日々です。

衆議院事務局の国際的ネットワーク構築 —日本の議会制度等に関する対外発信—

国会というと、国内向けの仕事を中心というイメージがあるかもしれませんが、衆議院事務局では、国際会議（IPU（列国議会同盟）会議、G7下院議長会議、日本・EU議員会議等）や海外派遣議員団の随行に加えて、国外の関係諸機関に対する英語によるセミナーや国会参観を実施しています。これは日本の立法過程等を英語で説明することにより、国会についての国際的理解を得るとともに、事務局の国際的ネットワークを構築・拡充することを目的としています。

ちなみに海外でも、議会事務局が他国の議会事務局職員を受け入れる研修プログラムを実施している国があり、衆議院事務局からは、英国の下院議会事務局及び韓国国会事務局が行う研修に定期的に参加しているほか、EUやカナダ、オーストラリアの議会事務局が開催する研修プログラムに参加したこともあります。

1. 外国の議会事務局等との交流

- フィリピン上下両院議会事務局
※政策研究大学院大学との共同プロジェクト
- ベトナム国会事務局能力向上プロジェクト
※JICA（国際協力機構）との共同プロジェクト
- 議会運営・選挙管理研修（カンボジア、コートジボワール、サモア、ネパール、マリ、モザンビークの議会事務局等）
※JICAの依頼に基づくプロジェクト
- 韓国国会事務局
- 英国下院議会事務局

2. 各国大使館との交流

- 主要先進7か国、欧州連合（EU）、オーストラリア、ニュージーランド
- ASEAN10か国

3. 海外大学院・大学との交流

- 米国・ワシントン大学セントルイス校
- 米国・カリフォルニア大学バークレー校
- オランダ・ライデン大学

(いずれも平成30年度からの実績)



G7各国等に対する外交官向け議会研究プログラムの様子

入局数年以内の若手職員も、過去に在外公館勤務や海外大学院留学を経験している先輩職員のアドバイスを受けながら、セミナーの発表者を務めたり、英語による国会参観を行うなど、海外からのお客様と直接交流しており、最近はオンラインでの交流にも取り組んでいます。

国際部はもちろんのこと、会議運営部門、調査部門、その他の議員（院）活動補佐部門、憲法審査会事務局など、あらゆる部署の職員に、こうした対外発信に参加する機会があり、東京で働きながら国際的な経験を培うことができるというのも、衆議院事務局ならではの特色と言えるでしょう。